

## 古宿町まつり囃し保存会 ～地域の伝統を、こどもたちと未来へ～

地域の伝統を次世代に伝える「古宿町まつり囃し保存会」を訪ね、代表の宮崎昇一さんにお話を伺いました。宮崎さんが太鼓に魅力を感じたのは、こどもの頃。水戸市で育ち、近所のお祭りで見えた太鼓の演奏に心を惹かれたのが原点です。那珂市額田に住むようになり、地域の伝統行事に触れるなかで「太鼓の魅力を次の世代へ伝えたい」との思いが強まっていきました。

2016年当時、地域活動が少なく、お囃子の担い手が不足していたことから「古宿町お囃し育成会」を3人で立ち上げ、夏休みにこどもたちへ通り囃子を教え始めたのが、現在の活動のはじまりです。



▲ 通り囃子を披露する様子

## 仲間とともに、地域に根ざした活動へ

活動を継続するなかで資金が必要になり、2022年に名称を「古宿町まつり囃し保存会」へ変更。運営に賛同してくれる出資者を募るとともに、地域の人々に活動を周知していきました。

少しずつ協力の輪が広がり、こどもたちと練習を重ねた成果を地元のお祭りで披露。かつて教えていたこどもたちが成長し、今では指導者として活動を支えてくれるようにもなりました。

## こどもたちの成長が、何よりのやりがい

活動の中心は、夏休みに小中学生へ通り囃子の指導を行うこと。また、昨年度は額田小学校の4～6年生を対象に、音楽の授業の一環としてお囃子体験を実施しました。「難しいリズムに苦戦しながらも、一生懸命練習して本番で太鼓を叩けるようになった姿を見ると、胸が熱くなります」と話す宮崎さん。こどもたちが次の世代へと伝統をつないでいく、そんな連鎖が生まれています。

また、将来の展望について「祭りの伝統を守るには、自分ひとりでは限界がある。次世代が受け継いでいけるよう、引き継ぎの仕組みをつくっていきたい」と語りました。少子高齢化が進み、地域の担い手不足が課題となるなか、こうした活動が息づいていることは、地域にとっての大きな“お宝”です。まだまだ発展途上と語る保存会の活動は、これからも続きます。

## 活動写真

